

ACU2年間教育計画（既卒入職.ver）

看護職員目標<職員一人一人が、仕事に関する様々な取り組みを通して自己の成長を実感することができる>

1. 看護ケア向上のために、教育活動により学習したことを活用し実践する。
2. 自分の持てる力を精一杯出し努力をする事で、仕事への誇りを持つ。
3. 学習活動において「私のしたい看護」と日常の看護活動が出発点であることを再確認する。
4. 人との関わりにおいて自己開示し、フィードバックを受け入れて成長していく。
5. 自己開発と自己研鑽に励む努力を継続する。
6. 自分自身のために組織を大切に、仕事の上で質と効率にこだわりを持つ。

既卒採用者教育目標：高度急性期病院における安全で確実な看護ケアが、それまでの経験を活かしながらより豊かに実践できる

	学習目標	業務目標	具体策
ステップ0	報告・連絡・相談を通してスタッフとコミュニケーションをとれる	①遅刻・欠勤のないように体調管理ができる ②病棟内の物品の配置がわかる ③フリー業務が遂行できる ④患者情報・医師指示などケアに必要な情報が収集できる ⑤シャドウイングにより日勤業務の流れがわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟オリエンテーション ・フリー業務オリエンテーション ・日勤業務のオリエンテーション ・日勤業務のシャドウイング ・技術チェックリストの記載
ステップ1	①大動脈疾患の病態生理と治療、看護が理解できる ②大動脈疾患患者に対する看護が助言のもとに実践できる	①軽症患者1名を指導のもとに受け持つことができる ②実践した処置・ケアの結果を電子カルテに入力できる ③転床業務を遂行できる ④ドレーン抜去・CV挿入・胸腔穿刺など頻繁に行われる処置が自立して行える ⑤軽症患者1名を自立して受け持つことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理・病態生理の学習 ・常用・頻用薬剤の学習 ・転床業務オリエンテーション
ステップ2	①メンバーシップを理解し実践できる ②急変時に実践する手技が理解できる	①軽症患者2名を指導のもとに受け持つことができる ②軽症患者2名を自立して受け持つことができる ③夜勤で軽症患者1～2名を受け持つことができる ④大動脈疾患に対する外科的治療が理解できる ⑤大動脈疾患に対し外科的治療をした患者に必要なケアが理解できる ⑥ACU1からの転入患者の受け入れができる ⑦EVAR・TEVAR術後患者の受け入れができる	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーシップに関するナースングサポートの視聴 ・術式と周術期看護の学習 ・周術期看護に関するナースングサポートの視聴 ・夜勤業務オリエンテーション ・救急対応講習またはBLS受講 ・急変時の処置（挿管介助・除細動）と使用薬剤の学習 ・急変対応に関するナースングサポートの視聴 ・転入業務のオリエンテーション ・EVAR・TEVAR患者受け入れのオリエンテーション
ステップ3	①術後急性期にある患者の病態生理と看護が理解できる ②術後急性期にある患者の看護が助言のもとに実践できる	①B型解離などの緊急入院患者の受け入れができる ②AAAR・大網充填術後患者の受け入れができる ③夜勤で非挿管患者3人を受け持つことができる ④CSFDの適応と管理を理解できる（実践できる） ⑤抜管当日の患者を指導のもとに受け持つことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメントに関する研修の受講 ・入院業務オリエンテーション
ステップ4	①人工呼吸器装着患者の病態生理と看護が理解できる ②人工呼吸器装着患者に対する看護が助言のもとに実践できる	①人工呼吸器の適応となる病態を理解できる ②人工呼吸器装着中の患者に必要なケアが理解できる ③人工呼吸器装着患者を指導の元に受け持つことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器装着患者への看護の学習 ・人工呼吸器に関するナースングサポートの視聴
ステップ5	①血液浄化療法を施行している患者の病態生理と看護が理解できる ②血液浄化療法を施行している患者の看護が助言の元に実践できる ③急変時にリーダーシップを発揮できる ④重症患者に適切なケアを提供できる	①血液浄化療法の適応となる病態を理解できる ②血液浄化療法施行中の患者に必要なケアが理解できる ③血液浄化療法施行中の患者を指導の元に受け持つことができる ④急変時にメンバー・他職種と連携して行動できる ⑤一般病棟で急変した患者の受け入れができる	<ul style="list-style-type: none"> ・血液浄化療法に関する学習 ・ICLS受講 ・急変対応に関する研修の受講 ・リーダーシップに関するナースングサポートの視聴 ・リーダーシップに関する研修の受講
ステップ6	看護実践の場においてリーダーシップを発揮できる	①日勤リーダー業務が助言の元で実践できる ②夜勤リーダー業務が助言の元で実践できる	リーダー業務に関するオリエンテーション